

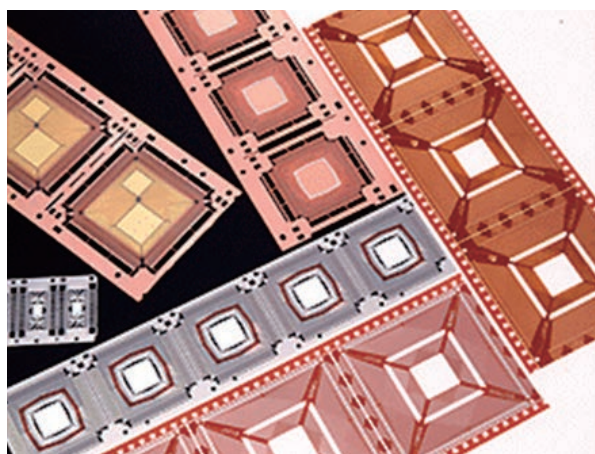
2	カパーロマン 個性と技術を活かし合い 社会課題の解決に挑みつつける
3	SDGs実現に向けて 日本電線工業会 会員各社による 持続可能な社会を支える取り 組み
4・5	カパーテクノロジーズ 国内唯一の「りん青銅」専業 メーカー 地球にやさしく、人にやさし い工場 株式会社原田伸銅所
6・7	カパーテクノロジーズ2 抵抗溶接50年、オーダーメイ ドが技術革新を生み続ける 新光機器株式会社
8・9	カパーピックス 「銅のすごい力を調べてみよ う！」夏休み自由研究コンテ スト」開催 銅センターニュース&トピックス
10・11	

## 個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける



宮崎 庄司

一般社団法人 日本銅センター 副会長  
一般社団法人 日本伸銅協会 会長  
株式会社神戸製鋼所 執行役員 素形材事業部門長



神戸製鋼所における伸銅事業のルーツは、大正6年（1917年）に操業を開始した北九州市の門司工場（現、株式会社KMCT 門司メタルプロダクツ事業部）での銅や黄銅の伸線事業にあります。その後、昭和14年（1939年）に操業を開始した山口県下関市にある長府工場（現、長府製造所）においても伸銅事業を展開し、現在に至っています。当社における伸銅事業の歴史を語る上で欠かすことが出来ない製品があります。それが、当社開発合金である「KFC（Kobe Ferrous Copper, C19210, Cu-Fe-P 合金）」です。KFCが世に出る前、当時、門司工場で製造していた銅管には大きな課題がありました。それは銅の溶解中に、作業で使用する治工具等が溶けて、微量の鉄が製品へ混入するというトラブルでした。このトラブル対策に明け暮れる同僚を横目に見ながら、違う視点で真っ赤に溶けた銅を眺める先人が居ました。

一種の発想の転換ではありますが、「この鉄の混じった銅（合金）が、これまでに無い新しい機能を発揮して、従来とは異なる用途に適用できないものか？」と考え、最適な配合の研究に明け暮れた結果、不純物が増すほど低下する導電率も90%を確保し、引張強さも400N/mm（純銅比で約1.5倍）を有した製品を世に送り出すことに成功しました。時は、昭和52年（1977年）。この製品「KFC」はリードフレーム用の素材として高く評価され、現在も多くのお客様にご愛顧頂く、当社を代表する製品となりました。

当時は、日本の半導体産業の勃興期であり、リードフレーム用として銅合金が目された時期と重なったことも幸運でした。一方、「トラブル（ピンチ）を進化・成長の機会（チャンス）に変える」という柔軟な発想と、「ものになるまで諦めない」不屈の精神は、現代において伸銅業に携わる我々にも必要なマインドであると考えています。

IT革命においても重要な役割を担うなど、安全・安心で豊かな暮らしの実現に大きく貢献してきた伸銅品ですが、その発展の裏側においては、多くの先人達の常識の枠にとらわれず挑みつづけた努力の歴史があったものと敬意を表します。今後も、銅の特性・優位性を活かせる市場は拡大するものと確信します。その一方で、代替素材との競合も益々激化する予測されますが、これまでの発展を支えてきた先人達に負けない「発想力（創造力）」と「不屈の精神」を持って、新たな価値を創造しつづけて、社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。